



1 導入編

ブレードサーバや添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

概要(→3ページ)	本装置の特長や添付(または別売品)のソフトウェアおよび各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。
導入にあたって(→9ページ)	システムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。
お客様登録(→14ページ)	お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひ登録をしてください。
セットアップを始める前に(→15ページ)	セットアップの順序を説明します。お使いになるオペレーティングシステムや購入時の本体によってもセットアップの方法は異なります。
カスタムインストールモデルのセットアップ(→17ページ) ..	購入したハードディスクドライブにインストール済みのWindows Server 2003 x64 EditionsおよびWindows Server 2003 のセットアップの方法について説明しています。再セットアップの際は、「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。
ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ(→45ページ)	ハードディスクドライブにWindows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003 およびWindows 2000をインストールする手順について説明しています。再インストールの際にも参照してください。
管理用リモートデスクトップについて(→64ページ)	管理用リモートデスクトップの設定について説明します。

<次ページに続く>

ターミナルサービスについて(→65ページ)	ターミナルサービスのインストール方法とクライアントからサーバへの接続や切断方法について説明します。
HostRAID™について(→70ページ)	本体標準装備のディスクアレイ機能を使ったセットアップについて説明します。
FibreChannelコントローラ(N8403-015) ご使用時の注意事項(→74ページ)	FibreChannelコントローラ(N8403-015)ご使用時の注意事項について説明します。

概要

以下にお買い求めになられた本装置の特長を示します。

高性能

- 高速プロセッサ (64-bit Intel® Xeon® Processor)
- DDR2-400 SDRAM(インターリーブ)
- 高速1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T インタフェース (1Gbps/100Mbps/10Mbps対応)x2
- 高速ディスクアクセス (Ultra320 SCSI)

高信頼性

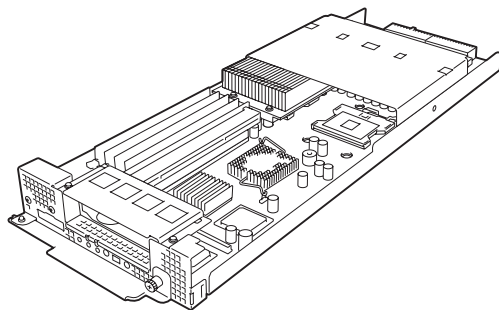
- メモリ監視機能 (コネクタブルエラー訂正/アンコネクタブルエラー検出)
- メモリの強制使用 (起動) 機能
- CPU縮退機能 (障害を起こしたデバイスの論理的な切り離し)
- パスパリティエラー検出
- 温度検知
- 異常通知
- 内蔵ファン回転監視機能
- フロント/リアファンの冗長機能
- 内部電圧監視機能
- BIOSパスワード機能
- 内蔵ディスクアレイ (HostRAID)
- オートリビルド機能 (ホットスワップ対応)

管理機能

- ESMPROプロダクト
- DianaScope
- ASM

保守機能

- SystemGlobe Deployment Manager Lite
- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能



拡張性

- オプションスロットを装備し、拡張スロットオプションカードを利用可能
- 最大8GBの大容量メモリ
- 最大2マルチプロセッサまでアップグレード可能
- ネットワークポートを2チャンネル標準装備
- CPUブレード1枚につき最大2台までのハードディスクドライブが接続可能
- USB 1.1 (2ポート) 対応

すぐに使える

- Microsoft® Windows Server™ 2003 x64 Editions 日本語版、Microsoft® Windows Server™ 2003 日本語版、Red Hat® Linux® 日本語版またはMIRACLE LINUX日本語版インストール済み (ビルド・トゥ・オーダーの場合)
- ハードディスクドライブはケーブルを必要としないワンタッチ取り付け

豊富な機能搭載

- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能

自己診断機能

- Power On Self-Test (POST)
- システム診断ユーティリティ

便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER (システムセットアップユーティリティ)
- SETUP (BIOSセットアップユーティリティ)
- SCSI Select (SCSI BIOSセットアップユーティリティ)

ブレードサーバとは

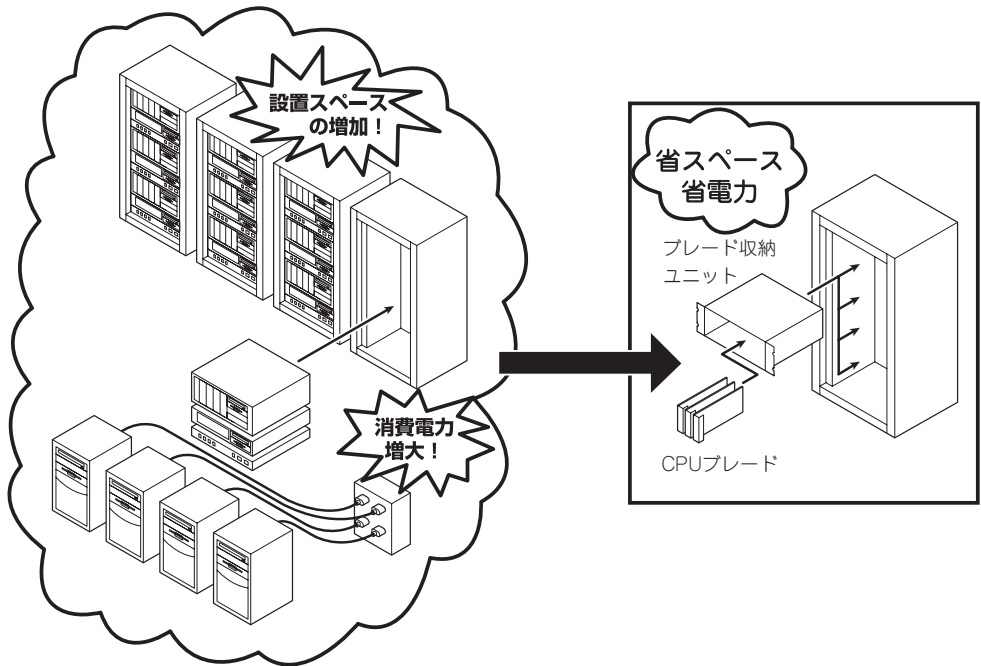
ますます多様化するインターネット分野において、「わずかな設置スペースで数多くのサーバを運用したい」という要望は、システム管理者として必ず持っているはずです。

どんなに筐体(ケース)のサイズを小さくしても、1つのケースに1台分のサーバ機能しか持っていないければ、増設のたびに設置スペースは増していきます。また、電源の工事や収納用ラックの購入など必要以上の予算が発生することもあります。

「Express5800/BladeSeverシリーズ」は、サーバ機能を必要最低限まで絞り込み、1枚のボード(CPUブレード)に凝縮した、省スペース・集約型サーバです。

わずか4U(約178mm)の「ブレード収納ユニット(オプション)」に6枚のCPUブレードを搭載し、6台分のサーバ機能を実現しました。

従来の1U~2U/1サーバと比較すると、約2~4倍の搭載密度を実現し、サーバ集積用途でのフロアスペースの有効活用を可能にします。



CPUブレードおよびCPUブレードに接続されるハードディスクドライブは、ワンタッチで取り付けることができ、電源やケーブルの配線・接続の必要はありません。

また、サーバ機能を搭載したCPUブレードには、オプションでプロセッサやメモリ、PCIオプションカードなどを搭載することができます。

サーバ管理について

本装置では、高い信頼性を確保するためのさまざまな機能を提供しています。
各種リソースの冗長化などといったハードウェア本体が提供する機能と、サーバ本体に添付されているESMPROなどのソフトウェアが提供する監視機能との連携により、システムの障害を未然に防止または早期に復旧することができます。
また、停電などによる電源障害からサーバを守る無停電電源装置などの各種オプション製品により、さらなる信頼性を確保することができます。
各機能はそれぞれ以下のハードウェアおよびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
サーバ管理	サーバ本体機能	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent DianaScope SystemGlobe DeploymentManager Lite*2 (DeploymentManager*1でも利用可能)
ストレージ管理 (ディスク管理)	ハードディスクドライブ	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent ASM(標準ディスクアレイを使用する場合) Windows標準のソフトミラーツール
無停電電源装置管理	無停電電源装置 (APC社製UPS)*1 Web/SNMP Management Card*1	ESMPRO/AutomaticRunning Controller製品群*1
ネットワーク管理	100BASE-TX接続ボード*1	WebSAM/Netvisor*1

*1 別売の有償品。

*2 DeploymentManagerとSystemGlobe DeploymentManager Liteとの機能差は、188ページを参照してください。

サーバ管理

CPUブレード上には標準でシステム監視チップを搭載しており、サーバに内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能とシステム管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、サーバの稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。
ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能可否は次ページの表のとおりです。
また、DianaScopeにより、サーバ上でオペレーティングシステムが稼動していない状態でのリモート操作/保守を管理PCから行ったり、リモートパワーオン機能により、リモートのPC上からCPUブレードの電源をONにすることができます。



ESMPRO/ServerManagerやESMPRO/ServerAgent、DianaScope、SystemGlobe DeploymentManager Liteは、標準で添付されています。
各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

機能名	可否	機能概要
ハードウェア	○	HWの物理的な情報を表示する機能です。
メモリバンク	○	メモリの物理的な情報を表示する機能です。
装置情報	○	装置固有の情報を表示する機能です。
CPU	○	CPUの物理的な情報を表示する機能です。
システム	○	CPUの論理情報参照や負荷率の監視をする機能です。 メモリの論理情報参照や状態監視をする機能です。
I/Oデバイス	○	I/Oデバイス(フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、 パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ)の情報参照をする 機能です。
システム環境	○	温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能です。
温度	○	筐体内部の温度を監視する機能です。
ファン	○	ファンを監視する機能です。
電圧	○	筐体内部の電圧を監視する機能です。
電源	○	電源ユニットを監視する機能です。
ドア	○	Chassis Intrusion (筐体のカバー/ドアの開閉) を監視する機 能です。
ソフトウェア	○	サービス、ドライバ、OSの情報の参照する機能です。
ネットワーク	○	ネットワーク(LAN)に関する情報参照やパケット監視をする機 能です。
拡張バスデバイス	○	拡張バスデバイスの情報の参照する機能です。
BIOS	○	BIOSの情報を参照する機能です。
ローカルボーリング	○	エージェントが取得する任意のMIB項目の値の監視する機能で す。
ストレージ	○	ハードディスクドライブなどのストレージデバイスやコントロ ーラを監視する機能です。
ファイルシステム	○	ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能です。
ディスクアレイ	×	LSI Logic社製およびPromise社製ディスクアレイコントローラ を監視する機能です。
その他	○	Watch Dog Timer (OSのストールを監視するタイマー) によるOS ストール監視をする機能です。
	○	OS STOPエラー発生後の通報処理を行う機能です。

○: サポート △: 一部サポート ×: 未サポート

電源監視について

電源監視については、以下のように動作します。

ー 電源ユニットの状態について

ESMPRO/ServerManagerのデータビューアの[ESMPRO] - [システム環境] - [電源]の
[個別状態]は一つしか表示されませんが、個別状態は実装されている電源ユニットの状態
を全て反映しています。

ー 電源ユニットの障害が発生した場合

常に「電源モジュール1」または、「電源ユニット1」にて発生したと通報します。障害の発
生した電源ユニットを特定するには、電源ユニットのランプを確認してください。

ストレージ管理(ディスク管理)

大容量のストレージデバイスを搭載・接続できるCPUブレードを管理するために次の点について留意してください。

ハードディスクドライブの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。標準添付品であるESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentを利用して定期的にディスクの状態をチェックしてください。



ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは、本製品に標準で添付されています。ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

CPUブレードに同型番のハードディスクドライブを2台接続し、Windowsを使用する場合は、内蔵ディスクアレイ(HostRAID)を使用することができます(70、140ページ参照)。万一のシステムディスクの故障によるデータの消失を防ぐためにもHostRAIDによるRAID1環境の利用をお勧めします。HostRAIDを使用したディスクアレイの管理・監視には「Adaptec Storage Manager™(ASM)」を使用します。ASMに関する詳細な説明については、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

CPUブレードに接続された内蔵SCSIタイプのハードディスクドライブ(2台必要)は、Windows標準のツールによりソフトミラーで運用することができます。

なお、LinuxでのHostRAID使用については、Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書を参照してください。

また、本システムはオプションでディスクアレイコントローラを接続し、別売のDISK増設筐体に搭載しているハードディスクドライブ群をディスクアレイ構成にして運用することができます。ディスクアレイ構成で運用していれば、万一のディスククラッシュの際にも、アレイディスク内のデータを失うこともなく、復旧することができます。

無停電電源装置管理

商用電源のトラブルは、サーバを停止させる大きな原因のひとつです。

停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュール等によるサーバの自動・無人運転を実現することもできます。

ブレードサーバでは、APC社製UPSをサポートしています。

APC社製UPSの制御・管理は、UPSにWeb/SNMP Management Cardを装着し、ESMPRO/AutomaticRunningController製品群がネットワーク経由にて行います。

電源は、オプションの増設電源ユニットにより電源の冗長構成を構築することができます。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManagerおよびESMPRO/ServerAgentを使用することにより、CPUブレードに内蔵されているLANポートの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。また、別売のWebSAM/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

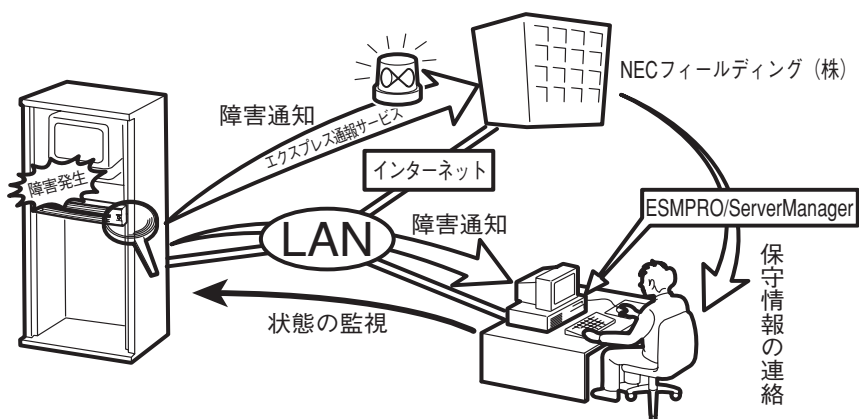
導入にあたって

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

装置に標準で添付された「ESMPRO/ServerManager」および「ESMPRO/ServerAgent」を利用することにより、リモートからサーバの稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。

システムの運用中は、「ESMPRO/ServerManager」および「ESMPRO/ServerAgent」を利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。



なお、装置に障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することをご検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

お買い求めになられたブレードサーバを導入する前に、ブレードサーバ用のハードディスクドライブドライブの状態を確認しておいてください。ブレードサーバ用のハードディスクドライブでは、ご注文により出荷時の状態に次の2種類があります。

出荷時のモデル	説 明
カスタムインストール	ビルド・トゥ・オーダーでWindows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003またはLinuxのプレインストールを指定された場合。
未インストール	ディスクレスモデルを購入し、OSのプレインストールを希望しなかった場合。

出荷時のオペレーティングシステムのインストール状態により、必要なセットアップ作業が異なります。15ページの説明に従ってセットアップを行ってください。

セットアップの手順を確認しましょう

システムを構築するにあたり、装置のセットアップは必要不可欠なポイントです。ブレードサーバのセットアップを始める前にセットアップをどのような順序で進めるべきか十分に検討してください。

必要のない手順を含めたり、必要な手順を省いたりすると、システムの構築スケジュールを狂わせるばかりでなく、本装置が提供するシステム全体の安定した運用と機能を十分に発揮できなくなります。

1. 運用方針と障害対策の検討

ブレードサーバのハードウェアが提供する機能や採用するオペレーティングシステムによって運用方針やセキュリティ、障害への対策方法が異なります。

「概要(3ページ)」に示すブレードサーバのハードウェアやソフトウェアが提供する機能を十分に利用したシステムを構築できるよう検討してください。

また、システムの構築にあたり、ご契約の保守サービス会社および弊社営業担当にご相談されることもひとつの手です。

2. ハードウェアのセットアップ

ブレードサーバの電源をONにできるまでのセットアップを確実に行います。この後の「システムのセットアップ」を始めるために運用時と同じ状態にセットアップしてください。詳しくは、15ページに示す手順に従ってください。

ハードウェアのセットアップには、オプションの取り付けや設置、周辺機器の接続に加えて、内部的なパラメータのセットアップも含まれます。ご使用になる環境に合わせたパラメータの設定はオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアと連携した機能を利用するために大切な手順のひとつです。

3. システムのセットアップ

オプションの取り付けやBIOSの設定といったハードウェアのセットアップが終わったら、ハードディスクドライブのパーティションの設定やオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアのインストールに進みます。

本装置がサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows Server™ 2003、Standard x64 Edition 日本語版
(以降、「Windows Server 2003 x64 Editions」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows Server™ 2003、Enterprise x64 Edition 日本語版
(以降、「Windows Server 2003 x64 Editions」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition 日本語版
(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise Edition 日本語版
(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版
(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)
- Linux(サポートしているディストリビューションについては、お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。)

Linuxのインストール、および管理ソフトウェアのインストールとセットアップはExpress5800/Linuxインストール代行サービス説明書を参照してください。その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

<初めてのセットアップの場合>

初めてのセットアップでは、お客様が注文の際に指定されたインストールの状態によってセットアップの方法が異なります。

「カスタムインストール」を指定して購入された場合は、ブレードサーバの電源をONにすれば自動的にセットアップが始まります。セットアップの途中で表示される画面のメッセージに従って必要事項を入力していけばセットアップは完了します。

「未インストール」にて購入された場合は、添付の「SystemGlobe DeploymentManager Lite」を使ってインストールするか、すべてマニュアルでインストールする「ローカルインストール」でセットアップをします。

<再セットアップの場合>

添付の「SystemGlobe DeploymentManager Lite」を使って再セットアップをするか、すべてマニュアルでインストールする「ローカルインストール」で再セットアップをします。

4. 障害処理のためのセットアップ(Windows)

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。

5. 管理用ソフトウェアのインストールとセットアップ(Windows)

出荷時にインストール済みの管理用ソフトウェアやマニュアルでインストールしたソフトウェアをお使いになる環境にあった状態にセットアップします。また、ブレードサーバと同じネットワーク上にある管理PCにインストールし、ブレードサーバを管理・監視できるソフトウェアもあります。併せてインストールしてください。詳しくは「ソフトウェア編」をご覧ください。

6. システム情報のバックアップ

保守ユーティリティ「オフライン保守ユーティリティ」を使ってCPUブレード上にある設定情報のバックアップを作成します。ブレードサーバの故障などによるパーツ交換後に以前と同じ状態にセットアップするために大切な手順です。詳しくは44ページをご覧ください。

各運用管理機能を利用するにあたって

ブレードサーバで障害監視などの運用管理を行うには、ブレードサーバに添付されたESMPRO/ServerAgent、ESMPRO/ServerManagerまたは同等のソフトウェアが必要となります。

この後で説明するセットアップ手順またはソフトウェアの説明書(別売の場合)に従って各ソフトウェアのインストールおよび必要な設定を行ってください。

各運用管理機能を利用するには、以下の点にご注意ください。

サーバ管理機能を利用するにあたって

- CPUやメモリを交換した場合やCPU縮退機能(マルチプロセッサモデルの場合)を利用する場合は、BIOSのコンフィグレーションが必要です。「システムBIOS(115ページ)」を参照して「Processor Settings」や「Memory Configuration」、「Advanced」の各項目を設定してください。
- サーバの各コンポーネント(CPU/メモリ/ディスク/ファン)の使用状況の監視やオペレーティングシステムのストール監視など、監視項目によってはESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentでしきい値などの設定が必要になります。詳細は、各ソフトウェアに関する説明やオンラインヘルプなどを参照してください。

ストレージ管理機能を利用するにあたって(ディスクアレイシステムを使用する場合)

ディスクアレイシステムの管理を行うには、ESMPRO/ServerAgentに加えて次のソフトウェアが必要です。

- CPUブレードに標準装備のディスクアレイコントローラを利用する場合は、「Adaptec Storage Manager™」をインストールしておく必要があります。
- オプション製品であるディスクアレイコントローラを利用する場合は、オプションに添付の説明書を参照してそれぞれの管理ソフトウェアをインストールしてください。

ディスク稼働率や予防保守性を高めるために、ディスクアレイシステムを構築する際は、定期的にディスクアレイシステムの整合性をチェックしてください。

無停電電源装置管理機能を利用するにあたって

- 無停電電源装置 (UPS) を利用するには、APC社製UPSにWeb/SNMP Management Cardの装着が必要です。

制御用ソフトウェアにはESMPRO/AutomaticRunningController製品群が必要です。

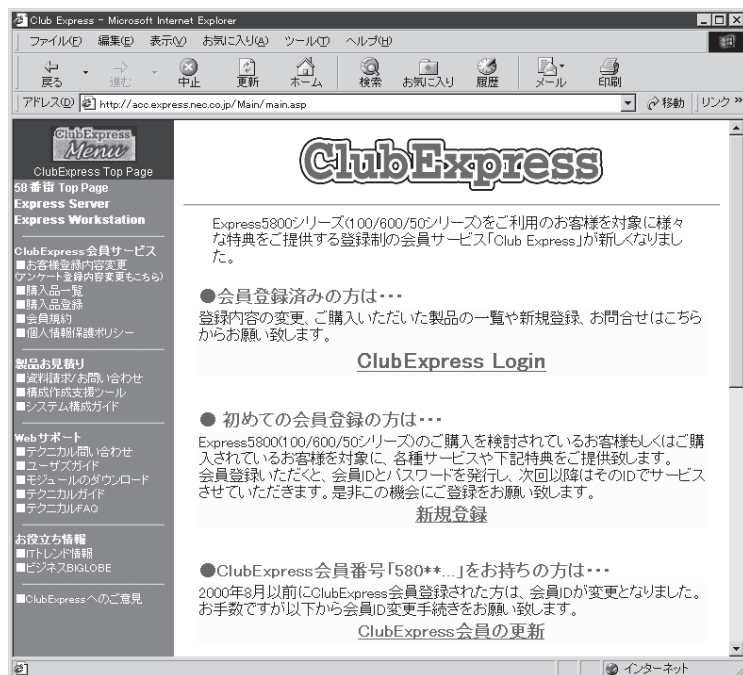
- 無停電電源装置を利用する場合、自動運転や停電回復時のサーバの自動起動などを行うにはBIOSの設定が必要です。「システムBIOS (115ページ)」を参照して、「System Hardware」メニューにある「AC-LINK」の設定をご使用になる環境に合った設定に変更してください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、Club Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

セットアップを始める前に

セットアップの順序と参照するページを説明します。セットアップはハードウェアから始めます。



BTO (工場組み込み出荷) にてWindowsのインストールを指定した場合は、本装置にWindowsのプロダクトキーが記載されたラベルが貼り付けられています。



プロダクトキーはOSのセットアップや再インストール時に必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう取り扱いにご注意ください。もし剥がれて紛失したり汚れて見えなくなった場合でも、ラベルの再発行はできませんので、あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品と一緒にメモを保管されることをお勧めします。

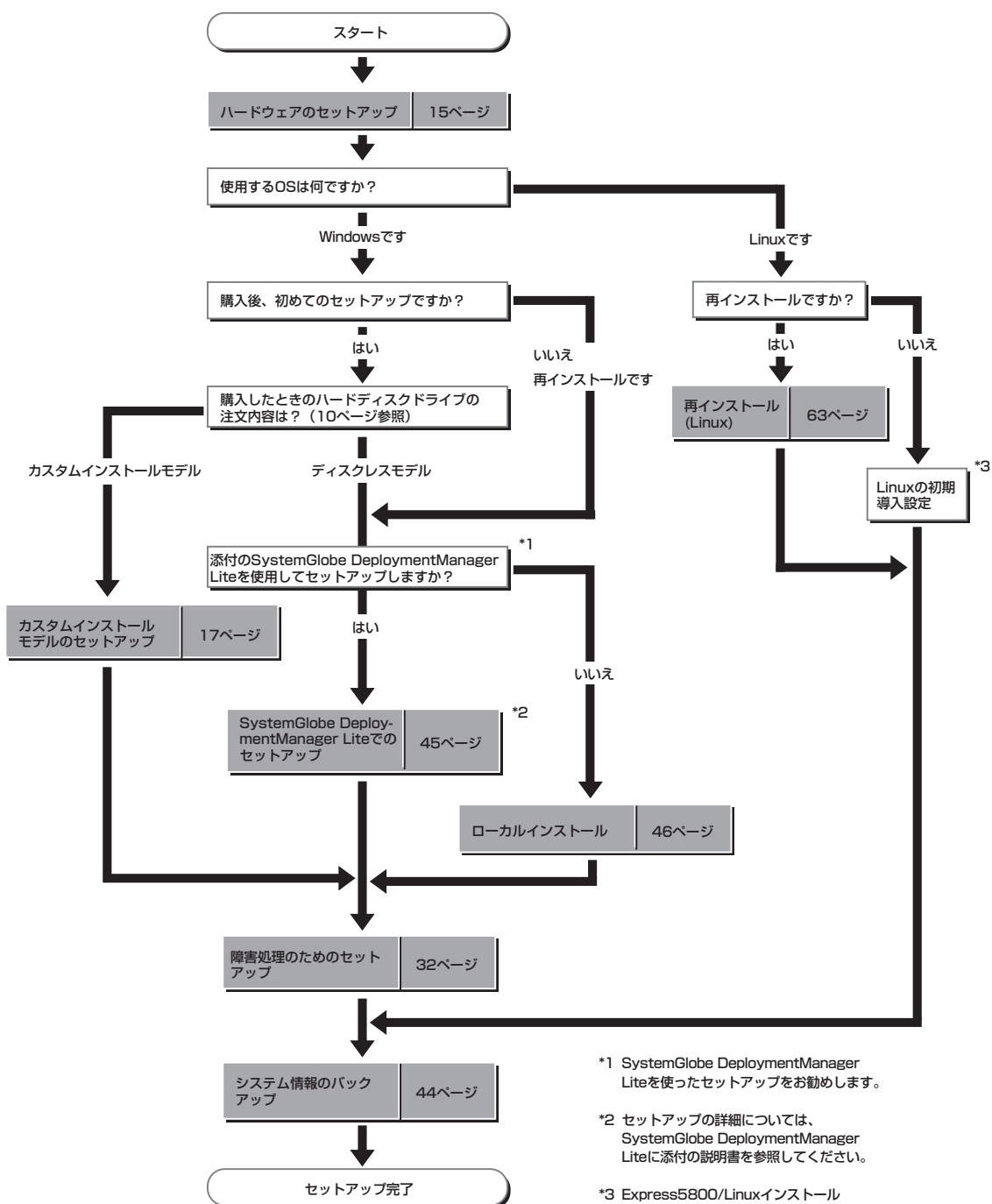
ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. ラックを設置する。(ラックに添付の説明書を参照)
2. 別途購入したオプションをブレード収納ユニットに取り付ける。(ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)
3. オプションのブレード収納ユニットをラックに取り付ける。(ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)
4. CPUブレードにオプションのメモリ (DIMM) を取り付ける。(→102ページ)
5. ブレード収納ユニットにCPUブレードとオプションのハードディスクドライブを取り付ける。(ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)
すでに搭載済みの場合は必要ありません。
6. 添付の電源コードをブレード収納ユニットと電源コンセントに接続する。(ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)
7. ハードウェアの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。
118ページに示す設定例を参考にしてください。また、システム日時や時刻の調整も忘れずに行ってください。

システムのセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了したら、お使いになるオペレーティングシステムに合わせて後述の説明を参照してください。再インストールの際にも参照してください。



カスタムインストールモデルのセットアップ

「ビルド・トゥ・オーダー」にて「カスタムインストール」を指定して購入された本装置のハードディスクドライブは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、本装置が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

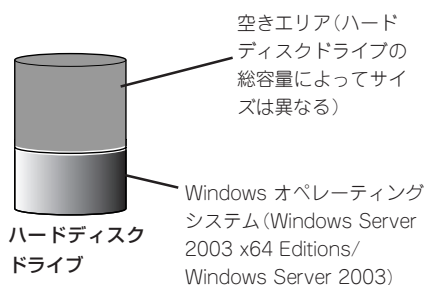
**チェック**

ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された本装置で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合や、その他の出荷状態のセットアップをする場合は、「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に —購入時の状態について—

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本装置のハードウェア構成(ハードディスクドライブのパーティションサイズも含む)やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー(ビルド・トゥ・オーダー)によって異なります。右図は、標準的な本装置のハードディスクドライブの構成について図解しています。



セットアップの手順

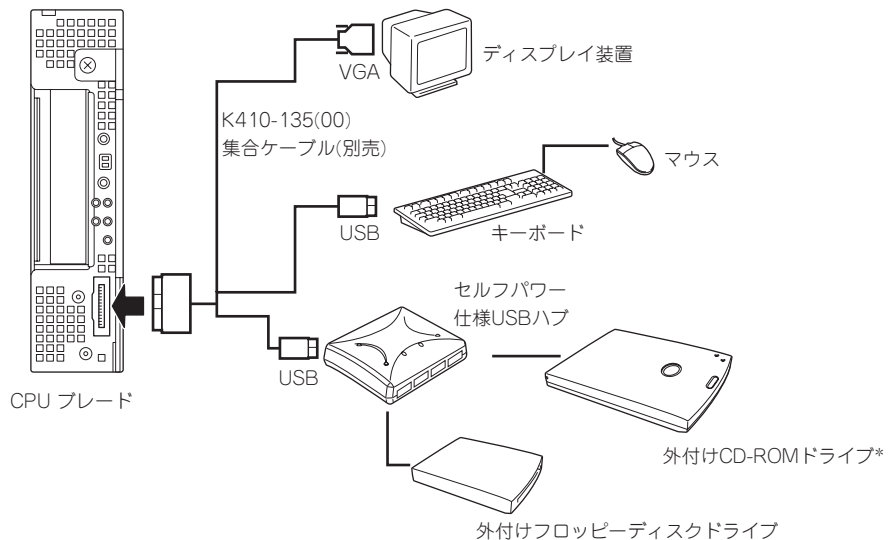
次の手順でシステムを起動して、セットアップをします。

オペレーティングシステムのセットアップ

オペレーティングシステムのセットアップ方法は、ブレード収納ユニットの種類や外付CD-ROMドライブなどの周辺機器の接続状況により異なります。

K410-135(00)集合ケーブル(別売)を経由して外付けCD-ROMドライブ・外付けフロッピーディスクドライブを接続する場合(集合ケーブルを使用したローカルでのインストール)

1. 下図のように、周辺機器とCPUブレードとを集合ケーブルによって接続する。



* N8460-001外付CD-ROMドライブを使用する場合は、セルフ・パワー仕様のUSBハブ(N8460-005)を使用せず、集合ケーブルにUSBキーボードを接続し、キーボードのUSBポートにN8460-001外付CD-ROMドライブを接続してもかまいません。

2. 周辺装置、CPUブレードの順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。

Windowsのセットアップ画面が表示されます。



チェック

CPUブレードの電源をONにする前に、N8460-001外付CD-ROMドライブの電源も忘れずにONにしてください。

3. 画面の指示に従って必要な設定をする。

設定を続けていくと最後にセットアップの終了を知らせる画面が表示されます。

4. [完了]をクリックする。

システムが再起動します。

5. 再起動後、システムにログオンする。
6. 22ページ以降を参照して、PROSetのインストールとネットワークドライバの詳細設定をする。
7. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
8. 32ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。
9. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。

インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

- Adaptec Storage Manager*
- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス*

上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

🔑 重要

カスタムインストールで出荷された場合、インストールされているサービスパックのバージョンと、装置に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。

装置にインストールされているサービスパック以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows Server 2003 RURx対応(Service Pack x)インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールを行ってください。サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報をご確認ください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

10. 44ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された本装置での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

N8405-013ブレード収納ユニットに実装し、ブレード収納ユニット内蔵のCD-ROMドライブ・フロッピーディスクドライブを使用する場合 (N8405-013に実装したローカルでのインストール)

1. ブレード収納ユニットユーザズガイドを参照して、内蔵CD-ROMドライブ&フロッピーディスクドライブを使用できるようにケーブルの接続を行い、KVMとMediaの切替を設定する。

🔑 重要

セットアップが終了するまでKVMとMediaの切替を行わないでください。

2. CPUブレードの電源をONにし、そのままWindowsを起動する。

Windowsのセットアップ画面が表示されます。

✓ チェック

CPUブレードの電源をONにする前に、N8460-001外付CD-ROMドライブの電源も忘れずにONにしてください。

3. 画面の指示に従って必要な設定をする。
設定を続けていくと最後にセットアップの終了を知らせる画面が表示されます。
4. [完了]をクリックする。
システムが再起動します。
5. 再起動後、システムにログオンする。
6. 22ページ以降を参照して、PROSetのインストールとネットワークドライバの詳細設定をする。
7. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
8. ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照して、ブレード収納ユニット内蔵フロッピーディスクドライブのドライバをインストールする。
9. 32ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。
10. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。
インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。
 - Adaptec Storage Manager*
 - ESMPRO/ServerAgent
 - エクスプレス通報サービス*

上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

重要

カスタムインストールで出荷された場合、インストールされているサービスパックのバージョンと、装置に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。

装置にインストールされているサービスパック以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows Server 2003 RURx対応(Service Pack x)インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールを行ってください。サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報をご確認ください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

11. 44ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された本装置での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

キーボード・ディスプレイ装置・CD-ROMドライブ・フロッピーディスクドライブが接続されていない場合



重要

はじめに、この後の「ターミナルサービスについて」の「ターミナルサービスクライアントのインストール」を参照し、ターミナルサービスのクライアントコンピュータを設定する必要があります。

クライアント用のコンピュータを一台用意し、OSをインストールしてからクライアントサービスを設定してください。

CPUブレードには、ターミナルサービスが「リモート管理サーバ」としてインストールされていますので、設定したクライアント側(以降、TSクライアントと呼ぶ)から、CPUブレードに接続し、CPUブレード側の管理作業を行ってください。

1. 周辺装置、CPUブレードの順に電源をONにする。



チェック

CPUブレードの電源をONにする前に、N8460-001外付CD-ROMドライブの電源も忘れずにONにしてください。

2. <CPUブレードにCD-ROMドライブが接続されていない場合>

ターミナルサービス(TS)クライアントのフロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブの共有化を行う。

ドライバなどのインストール時に必要です。

3. TSクライアント側から、CPUブレードに接続する。

手順については、この後の「ターミナルサービスについて」の「ターミナルサービスサーバへの接続を作成する方法」を参照してください。

以降の手順は、TSクライアント側から行うCPUブレードのセットアップ手順です。

4. 管理者権限のあるユーザー(Administratorなど)でログオンする。

手順については、この後の「ターミナルサービスについて」の「ターミナルサービスを使用してサーバに接続する方法」を参照してください。

使用者名と会社名を入力するウィンドウが表示されます。

5. 使用者名と会社名を入力する。

6. TSクライアント側で共有化したフロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブに、ドライブ文字を割り当てる。

7. 22ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。

8. 32ページを参照し、障害処理のセットアップを行う。

以上でカスタムインストールで購入されたハードディスクドライブ内のオペレーティングシステムのセットアップは終了です。

再インストールする場合は「ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。



- デバイスドライバのセットアップを行う場合、外付けCD-ROMを使用する必要がある場合があります。外付けCD-ROMを使用する場合の詳細な手順については、外付けCD-ROMのユーザーズガイドを参照してください。
- N8405-013ブレード収納ユニットに実装する場合で、Windows2000をご使用になる場合は、ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照して、内蔵フロッピーディスクドライブのドライバをインストールしてください。

PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。このユーティリティを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定



セットアップを始める前に必ず46ページの「注意事項」を参照してください。パーティションの作成やダイナミックディスクへのインストールに関する説明があります。

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、装置に耐障害性に優れた環境を提供し、本装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合に必要なになります。

PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

● Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

【標準のスタートメニューモードの手順】

スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]をクリックする。

【クラシックスタートメニューモードの手順】

スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

2. 「<CD-ROMのドライブレター>:\WINNT\W2K3AMD\NS1\PROSet\WS03_32E」ディレクトリ内の「DxSetup.exe」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。

3. [次へ]をクリックする。
4. [同意する]をクリックする。
5. デフォルトのままで、[次へ]をクリックする。
6. [インストール]をクリックする。

[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。

7. [閉じる]をクリックする。
8. システムを再起動する。

以上で完了です。

● Windows Server 2003の場合

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
2. エクスプローラを起動する。
【標準のスタートメニューモードの手順】
スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]をクリックする。
【クラシックスタートメニューモードの手順】
スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「PROSET.EXE」を実行する。
「<CD-ROMのドライブレター>:\¥WINNT¥DOTNET¥LAN¥BC5¥PROSET¥WS03XP32」ディレクトリ内の「PROSET.EXE」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。
4. [次へ]をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [標準]を選択し、[次へ]をクリックする。
7. [インストール]をクリックする。
[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
8. [完了]をクリックする。
9. システムを再起動する。

● Windows 2000の場合

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
2. スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「PROSET.EXE」を実行する。
「<CD-ROMのドライブレター>:\¥WINNT¥W2K¥LAN¥BC5¥PROSET¥WIN2K」ディレクトリ内の「PROSET.EXE」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet-Installshield Wizard]が起動します。
4. [次へ]をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [標準]を選択し、[次へ]をクリックする。
7. [インストール]をクリックする。
[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。

8. [完了]をクリックする。

9. システムを再起動する。

ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備の2つのネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。



サービスの追加で[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

● Windows Server 2003 x64 Editions の場合

PROSetのインストール状態によって手順が異なります。

ー PROSetがインストールされていない場合

1. [ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスを開く。

<標準のスタートメニューモードの手順>

- ① スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

- ② [プロパティ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

- ① スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- ② [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)を右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。

4. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

ー PROSetがインストールされている場合

1. 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

<標準のスタートメニューモードの手順>

- ① スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)を右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

[ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

- ① スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- ② [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

[Intel PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

3. [リンク]タブをクリックし、[速度とデュプレックス]をHUBの設定値と同じ値に設定する。

4. [Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

● Windows Server 2003の場合

PROSetのインストール状態によって手順が異なります。

ー PROSetがインストールされていない場合

1. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

<標準のスタートメニューモードの手順>

- ① スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続]をクリックする。
- ② [プロパティ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

- ① スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- ② [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をHUBの設定値と同じ値に設定する。



重要

Wake On LAN機能を使用する場合は[自動検出(Auto)]に設定してください。

4. [Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

ー PROSetがインストールされている場合

1. [有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスを開く。
<標準のスタートメニューモードの手順>
スタートメニューから[コントロールパネル]→[有線用Intel(R) PROSet]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>
① スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。
② [有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。
2. リスト中の[Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connection]をクリックして選択する。
3. [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をHUBの設定値と同じ値に設定する。



Wake On LAN機能を使用する場合は[自動検出(Auto)]に設定してください。

4. [有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

以上で完了です。

● Windows 2000の場合

PROSetのインストール状態によって手順が異なります。

ー PROSetがインストールされていない場合

1. スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
2. [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。
「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [構成]をクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をHUBの設定値と同じ値に設定する。



Wake On LAN機能を使用する場合は[自動検出(Auto)]に設定してください。

5. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。
6. [ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。
以上で完了です。

ー PROSetがインストールされている場合

1. スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。
2. [有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。
3. リスト中の「Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection」をクリックして選択する。
4. [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をHUBの設定値と同じ値に設定する。

重要

Wake On LAN機能を使用する場合は[自動検出(Auto)]に設定してください。

5. リスト中の「Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2」をクリックして選択する。
6. [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をHUBの設定値と同じ値に設定する。

重要

Wake On LAN機能を使用する場合は[自動検出(Auto)]に設定してください。

7. [有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

以上で完了です。

ネットワークアダプタの再インストール手順

OSのインストール後にネットワークドライバを削除し、再インストールする場合は以下の手順で再インストールしてください。

● Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムの再起動をすると自動的にインストールされますので、手動でインストールを行う必要はありません。

● Windows Server 2003の場合

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムの再起動をすると自動的にインストールされますので、手動でのインストールを行う必要はありません。

● Windows 2000の場合

1. OSを再起動し、ログオンする。
[新しいハードウェアの検出ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
2. [次へ]をクリックする。
3. [デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]ラジオボタンが選択されていることを確認し、[次へ]をクリックする。

4. [場所を指定]チェックボックスをチェックし、その他のチェックボックスのチェックを外し、[次へ]をクリックする。

[新しいハードウェアの検出ウィザード]の別ダイアログボックスが表示されます。

5. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、ドライバの格納場所に[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥LAN¥BC5¥PRO1000]と指定し、[OK]をクリックする。

6. [次へ]をクリックする。

7. [完了]をクリックする。

再び[新しいハードウェアの検出ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。上記手順2～7を参照し、インストールを行ってください。

ネットワークドライバ再インストール後、転送速度とDuplexモードの再設定が必要です。24ページを参照し、設定し直してください。

オプションのネットワークボードのドライバ

Windows Server 2003 x64 Editionsでオプションのネットワークボード(N8403-013)を追加される場合はネットワークドライバの再インストール手順を参考にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

N8403-013のドライバ

[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PRO1000¥WS03_32E]

Windows Server 2003でオプションのネットワークボード(N8403-013)を追加される場合はネットワークドライバの再インストール手順を参考にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

N8403-013のドライバ

[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥LAN¥BC5¥PRO1000¥WS03XP32]

Windows 2000でオプションのネットワークボード(N8403-013)を追加される場合はネットワークドライバの再インストール手順を参考にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

N8403-013のドライバ

[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥LAN¥BC5¥PRO1000¥WIN2K]

グラフィックスアクセラレータ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、システムのアップデート時に自動的にインストールされます。

Windows 2000において、OSのインストール後にグラフィックスアクセラレータドライバを削除し、再インストールする場合は以下の手順で再インストールしてください。

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

2. スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順でポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレー>:¥WINNT¥W2K¥VIDEO¥ATI」ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。
メッセージに従ってインストール作業を進めてください。
途中、「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックし、インストールを続けてください。
4. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってOSを再起動する。

CD-ROMドライバ

N8460-001外付CD-ROMドライブについてはWindowsをインストール後に、ドライバをインストールする必要があります。詳細な手順はN8460-001外付CD-ROMドライブのユーザーズガイドを参照してください。N8460-003 外付CD-ROMドライブについては、ドライバをインストールする必要はありません。N8405-013ブレード収納ユニット内蔵のCD-ROMについても、ドライバをインストールする必要はありません。

フロッピーディスクドライブドライバ

N8405-013ブレード収納ユニットに内蔵のフロッピーディスクドライブを使用する場合は、ブレード収納ユニット添付のCD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは複数のアダプタでグループを作り、サーバから送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。



- AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- Adapter Fault Tolerance(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるHUBに接続する場合は、すべて同一LAN(同一セグメント)上に存在するよう、HUB同士をカスケード接続にして使用してください。

● Windows Server 2003 x64 Editions の場合

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. [完了]をクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。
8. 「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
9. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、ドライバを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合は、ドライバを選択し、「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。

両方の設定が終了したら[OK]をクリックして画面を閉じてください。
10. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN(同一セグメント)上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。

● Windows Server 2003の場合

1. [コントロールパネル]ダイアログボックスで、[有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。

[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスが表示されます。
2. リスト中の[Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connection]にマウスポインタを合わせ、右クリックする。

プルダウンメニューが表示されます。
3. [チームに追加]を選択し、[新規チームを作成]をクリックする。

[チーム化ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
4. 「アダプタ フォルト トレランス」または「アダプティブ ロード バランシング」を選択して[次へ]をクリックする。

5. [次へ]をクリックする。
6. チームにするアダプタをチェックして[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。
[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet] ダイアログボックスに戻ります。
8. [適用]をクリックし、[OK]をクリックする。
9. システムを再起動する。

● Windows 2000の場合

1. [コントロールパネル]ダイアログボックスで、[有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。
[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスが表示されます。
2. リスト中の「Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connection」にマウスポインタを合わせ、右クリックする。
プルダウンメニューが表示されます。
3. [チームに追加]を選択し、[新規チームを作成]をクリックする。
[チーム化ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
4. 「アダプタ フォルト トレランス」または「アダプティブ ロード バランシング」を選択して[次へ]をクリックする。
5. [次へ]をクリックする。
6. チームにするアダプタをチェックして[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。
[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスに戻ります。
8. [適用]をクリックし、[OK]をクリックする。
9. システムを再起動する。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定(Windows Server 2003)

CPUブレード内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

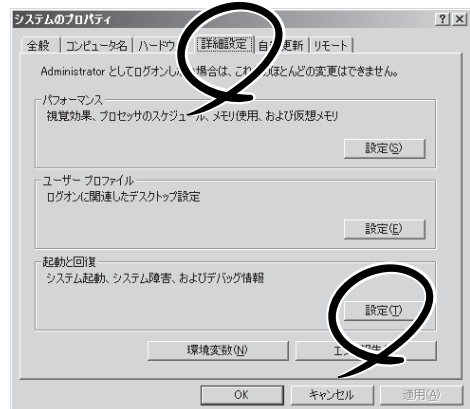
次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

2. [詳細設定]タブをクリックする。

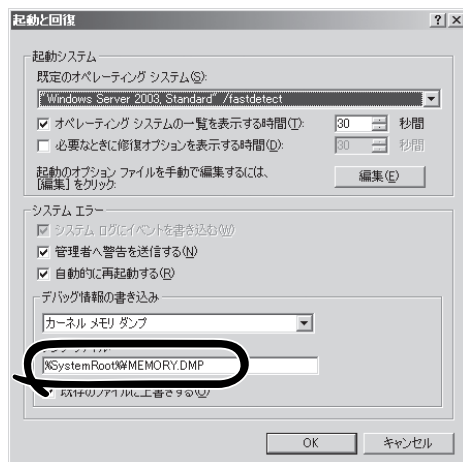
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。



4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:\MEMORY.DMP



重要

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

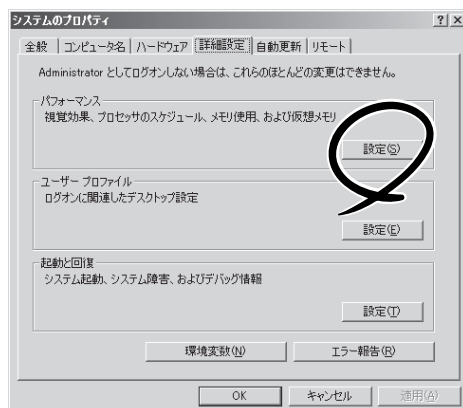
- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+1MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

Windows Server 2003の場合

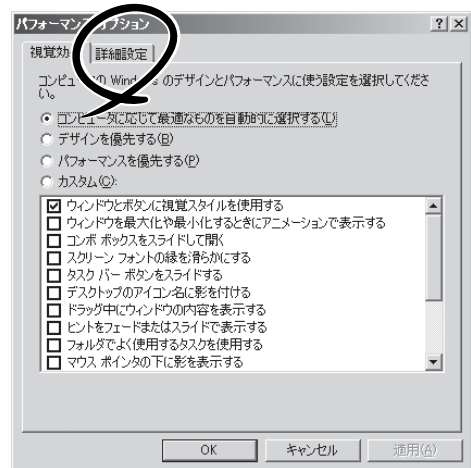
- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

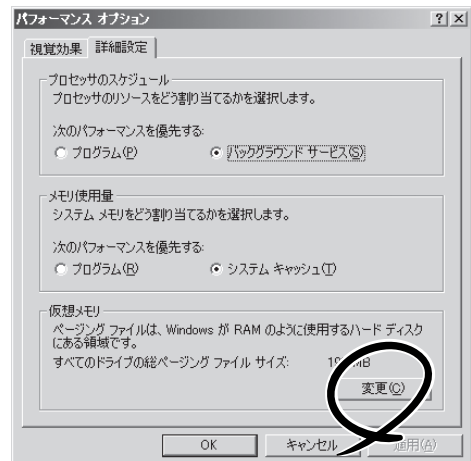
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



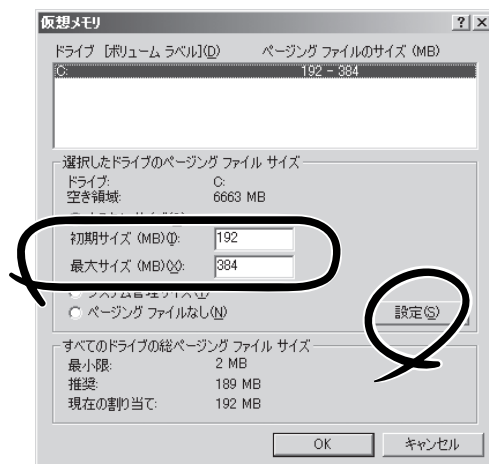
6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。



7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。



8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を推奨値以上に変更し、[設定]をクリックする。



重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて(47ページ)」を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押して、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定(Windows 2000)

CPUブレード内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

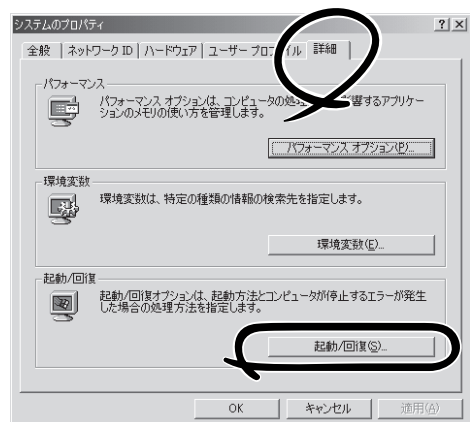
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [システム]アイコンをダブルクリックする。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細]タブをクリックする。

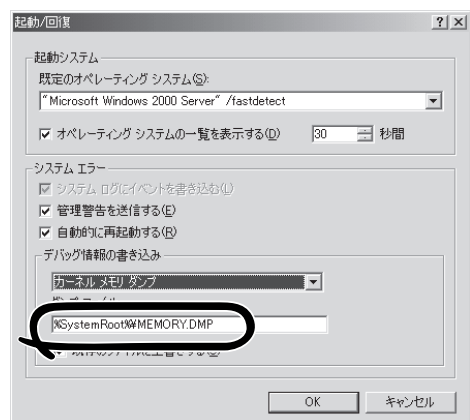
4. [起動/回復]をクリックする。



5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」という
ファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP



🔑 重要

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

6. [パフォーマンスオプション]をクリックする。
7. [仮想メモリ]ダイアログボックスの[変更]をクリックする。
8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を推奨値以上に変更し、[設定]をクリックする。

🔑 重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて(47ページ)」を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押して、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

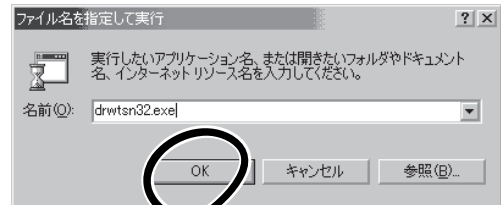
ワトソン博士の設定(Windows Server 2003)

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッグです。アプリケーションエラーを検出するとCPUブレードを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるように次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

[Windowsワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



チェック

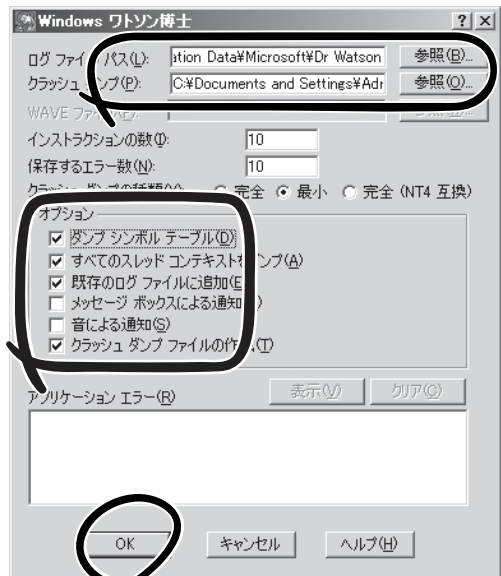
ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



ヒント

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ☐ ダンプシンボルテーブル
- ☐ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- ☐ 既存のログファイルに追加
- ☐ クラッシュダンプファイル作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

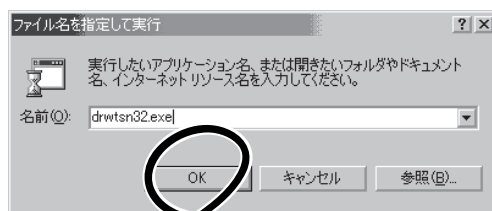
ワトソン博士の設定(Windows 2000)

Windows 2000ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとCPUブレードを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

[Windows 2000 ワトソン博士] ダイアログボックスが表示されます。



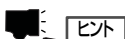
3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

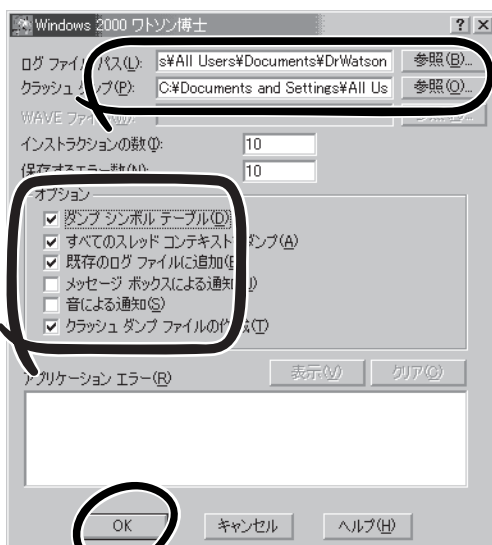


ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」は
Windows Debuggerで読むことができる
バイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ☐ ダンプシンボルテーブル
- ☐ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- ☐ 既存のログファイルに追加
- ☐ クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [プログラムの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。
[プログラムの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。
3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
[Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックする。
5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。
6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。
7. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]をクリックする。
8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール]をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。
操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

管理ユーティリティのインストール

出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をしてください。インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

- Adaptec Storage Manager*
- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス*

上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

上記のソフトウェアの一部は、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されています。インストールされていない場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。



ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」またはオプション品に添付の説明書を参照してください。

システムのアップデート - サービスパックの適用 -

システムのアップデートは次のような場合に行います。

- CPUを増設(シングルプロセッサからマルチプロセッサへ増設)した場合
- 再セットアップを行った場合
- システム構成を変更した場合(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合)
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
(サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。)
- 本装置のBIOSセットアップユーティリティを使って「Hyper-Threading Technology」の設定を変更した場合(プロセッサに関する設定項目です)

また、システムのアップデートを行うと、システムのセキュリティを強化するために、Microsoftから提供された修正プログラムが適用されます。システムのアップデートを行うことをお勧めします。

<修正プログラム情報>

● MS01-026

過去のセキュリティ情報で提供された修正プログラムの累積修正と、不要なデコーディング操作によりIISでコマンドが実行されるなど、さらに3つの脆弱性の修正を包含したプログラムです。詳細については、

http://www.microsoft.com/japan/technet/security/prekb.asp?sec_cd=MS01-026

を参照してください。(2001年8月16日現在)

● MS01-033

Index Server ISAPIエクステンションの未チェックのバッファによりWebサーバが攻撃される。詳細については、

http://www.microsoft.com/japan/technet/security/prekb.asp?sec_cd=MS01-033

を参照してください。(2001年8月16日現在)

ターミナルサービスクライアントからアップデートする場合



- ターミナルサービスクライアントのCD-ROMドライブがネットワークドライブに割り当てられ、共有化されていることを確認してください。
共有化されていない場合は、ネットワークドライブに割り当て共有化してください。
- CD-ROMドライブ以外のネットワークドライブが割り当てられて接続されている場合は手動で切断後に行ってください。システムのアップデートを適用後、再起動してから手動で接続を行ってください。

1. ターミナルサービスクライアントに管理者権限のあるアカウント(Administratorなど)でシステムにログオンする。
2. ターミナルサービスクライアントのCD-ROMドライブに、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。

ターミナルサービスクライアントの画面にマスタコントロールメニューが表示された場合は、終了させてください。

3. <Windows Server 2003 x64 Editionsの場合>

[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択し、[名前]ボックスに「ターミナルサービスクライアントのCD-ROMドライブ名:¥WINNT¥W2K3AMD¥UPDATE.VBS」を入力し、[OK]をクリックする。

<Windows Server 2003の場合>

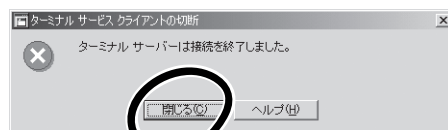
[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択し、[名前]ボックスに「ターミナルサービスクライアントのCD-ROMドライブ名:¥WINNT¥DOTNET¥UPDATE.VBS」を入力し、[OK]をクリックする。

<Windows 2000の場合>

[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択し、[名前]ボックスに「ターミナルサービスクライアントのCD-ROMドライブ名:¥WINNT¥W2K¥UPDATE.EXE」を入力し、[OK]をクリックする。

以降は、ターミナルサービスクライアントの画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、サービスパックを適用してください。

右の画面が表示されたら[閉じる]をクリックしてください。



CPUブレード側への再接続は、約5分たってから行ってください。システムのアップデートを適用中、ターミナルサービスの接続は自動で切断され、CPUブレードが再起動します。

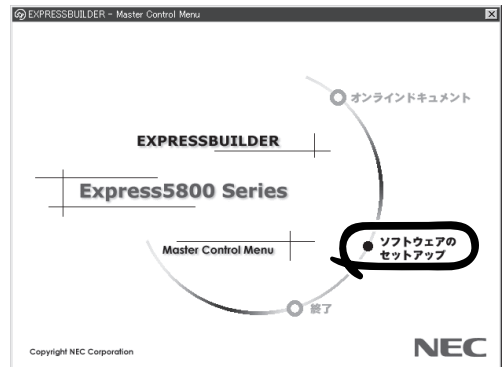
ローカルでアップデートする場合

1. CPUブレードに管理者権限のあるアカウント(Administratorなど)でシステムにログオンする。
2. CD-ROMドライブを使用可能な状態にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. 表示された場面「マスタコントロールメニュー」の「ソフトウェアのセットアップ」を左クリックし、メニューから「システムのアップデート」をクリックする。

以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、サービスパックを適用してください。



システムのアップデート適用後は、自動的に再起動します。



再起動が始まったら、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出してください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. EXPRESSBUILDER CD-ROMを本体装置のCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]—[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。

以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップ

ディスクレスモデルのセットアップおよび再セットアップには、次の2つの方法があります。

- SystemGlobe DeploymentManager Liteを使ったセットアップ
- SystemGlobe DeploymentManager Liteを使わないセットアップ（ローカルインストール）

SystemGlobe DeploymentManager Liteを使ったセットアップ

SystemGlobe DeploymentManager Liteに添付のドキュメント「SystemGlobe DeploymentManager Lite ユーザーズガイド」を参照して、再セットアップをしてください。



Windows Server 2003 x64 EditionsのインストールをSystemGlobe DeploymentManager Liteを使用して、インストールすることはできません。ローカルインストールの手順を参照し、インストールしてください。

<CD-ROMドライブ>：¥DPML¥MANUAL¥users_guide.pdf

インストールを完了したら、次の作業を行ってセットアップを完了してください。

- システムのアップデート* (42ページ)
- ドライバの詳細設定 (22ページ)
- 障害処理のためのセットアップ (32ページ)
- システム情報のバックアップ (44ページ)
- USB CD-ROMドライバのインストール (N8460-001外付CD-ROMを使用する場合のみ・詳細はN8460-001外付CD-ROMドライブに添付の説明書を参照)
- N8405-013内蔵フロッピーディスクドライブのドライバのインストール (N8405-013ブレード収納ユニットに実装する場合のみ・詳細はブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)

* オペレーティングシステムのインストールを行うシナリオで「システムのアップデート」を指定した場合は必要ありません。

ローカルインストール

SystemGlobe DeploymentManager Liteを使わないセットアップの手順について説明します。

インストールを始める前に、ブレード収納ユニットにキーボード・ディスプレイ装置・CD-ROMドライブ・フロッピーディスクドライブなどが正しい構成で接続されていることを確認してください。接続されていない場合は、必ず接続してください。

注意事項

ローカルインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

● キー入力について

USBフロッピーディスクドライブ、USB CD-ROMドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスク、CD-ROMへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

● システムのアップデートについて

システムの構成を変更したときは、必ずシステムに添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って、システムをアップデートしてください。詳しくは、42ページを参照してください。

● サービスパックの適用について

本装置では、サービスパックを適用することができます。添付されているサービスパック以降のサービスパックを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[8番街] <http://nec8.com/>

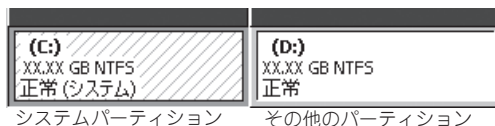
● ハードディスクドライブの接続について

OSをインストールする以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

● ダイナミックディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクにアップグレードしたハードディスクドライブに再インストールする際、OSをインストールするパーティション以外にパーティションが存在し、それを残したい場合は、次の点について注意してください。

<例>



- OSをインストールするパーティションには、前にOSをインストールしていたパーティションを選択してください。
- OSパーティションのフォーマットについては、「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択してください。

● 作成するパーティションサイズについて

<Windows Server 2003 x64 Editionsの場合>

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ+ダンプファイルサイズ
+アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	= 4100MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 1MB
アプリケーションサイズ	= 任意



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+1MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$4100\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 1\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} = 5381\text{MB}$
+ アプリケーションサイズ

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

<Windows Server 2003、Windows 2000の場合>

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ+ダンプファイルサイズ
+アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ = 2900MB (Windows Server 2003
(サービスパック含まない) のみ)
3500MB (Windows Server 2003
with ServicePack 1)
4400MB (Windows Server 2003
+サービスパック CD-ROM)
1000MB (Windows 2000の場合)

ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5

ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB

アプリケーションサイズ = 任意



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+12MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

Windows Server 2003の場合

$2900\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 12\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$
= 4192MB + アプリケーションサイズ

Windows 2000の場合

$1000\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 12\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$
= 2292MB + アプリケーションサイズ

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

● ライセンス認証の手続きについて

Windows Server 2003 x64 Editionsまたは、Windows Server 2003のライセンス認証の手続きを行う際に使用するプロダクトキーは、OSに含まれるプロダクトIDの記載されたCOAラベルと一致させる必要があります。



- インストールしてから30日以内にアクティベーションを行ってください。30日間を過ぎると、システムがロックされる場合があります。
- COAラベルは本体のタグラベルに貼付されています。

● アップグレードインストールについて

アップグレードする場合は、以下の点に注意してください。

- ☐ Windows Server 2003 x64 Editionsへのアップグレードインストールはできません。
- ☐ アップグレードインストールを行う場合は、アップグレード対象のOSを格納したパーティションに、空き容量が必要です。空き容量が不足している場合には、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。

Windows 2000からアップグレードインストールを行う場合、Windows Server 2003を運用するうえで必要なパーティションサイズは、Windows 2000を格納したパーティションに加え、約1.25～2GB以上の空き領域が必要です。

- ☐ Windows 2000からアップグレードインストールを行う前に、システムにPROSet IIがインストールされている場合は、PROSet IIを削除してから、アップグレードを始めてください。Teamingの設定がされている場合は、Teamingを解除してからPROSet IIを削除してください。
- ☐ アップグレードインストール中、以下のような「ディスク挿入」のポップアップメッセージが表示された場合は、[キャンセル]をクリックしてください。

<ディスクの挿入>

'Intel PRO Adapter CD-ROM or floppy disk'のラベルの付いたCDをCD-ROMドライブに挿入して、[OK]をクリックしてください。
フロッピーディスクなど、別の場所からファイルをコピーする場合も、[OK]をクリックしてください。

- ☐ オンボードLANの最大転送速度が1Gビット(1000Base)をサポートしている装置の場合、システムのアップデート後、PROSetの詳細設定でのジャンボフレームの値と、ネットワークアダプタのプロパティダイアログの詳細設定でのジャンボフレームの値を確認し、値が異なる場合は、ネットワークアダプタのプロパティダイアログの値をPROSetと同じ値に変更してください。
- ☐ ターミナルサービスクライアントからのアップグレードインストールは行えません。必ずローカルでCD-ROMドライブ・フロッピーディスクドライブを使用できる状態にしてからアップグレードインストールを始めてください。
- ☐ CPUブレードにN8460-001外付CD-ROMを接続してアップグレードインストールをする場合は、Windows Server 2003のインストール作業中にN8460-001外付CD-ROMのドライバを必ず最初にインストールしてください。

セットアップの手順(Windows)

ローカルインストールでOSをインストールする手順を次に示します。



セットアップを始める前に必ず46ページの「注意事項」を参照してください。パーティションの作成やダイナミックディスクへのインストールに関する説明があります。

ローカルインストールに必要なもの

作業を始める前に次のディスクや説明書を用意します。

<N8405-013ブレード収納ユニット内蔵CD-ROMドライブ&フロッピーディスクドライブを使用する場合(Windows Server 2003 x64 Editions)>

- ユーザーズガイド(本書)
- ファーストステップガイド
- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER
- ブレード収納ユニットユーザーズガイド
- バックアップCD-ROM Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition/バックアップCD-ROM Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition または、Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition 日本語版(CD-ROM)/Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版(CD-ROM)

<N8405-013ブレード収納ユニット内蔵CD-ROMドライブ&フロッピーディスクドライブを使用する場合(Windows Server 2003)>

- ユーザーズガイド(本書)
- ファーストステップガイド
- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER
- ブレード収納ユニットユーザーズガイド
- バックアップCD-ROM Win2003 Server Standard Edition/バックアップCD-ROM Win2003 Server Enterprise Edition または、Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition 日本語版(CD-ROM)/Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition 日本語版(CD-ROM)
- Windows Server 2003 Service Pack 1 (CD-ROM)

<N8405-013ブレード収納ユニット内蔵CD-ROMドライブ&フロッピーディスクドライブを使用する場合(Windows 2000)>

- ユーザーズガイド(本書)
- ファーストステップガイド
- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER
- ブレード収納ユニットユーザーズガイド
- Microsoft Windows 2000 Server 日本語版(CD-ROM)(with Service Pack 3 以上)
- Microsoft Windows 2000 Service Pack 4 (CD-ROM)
- Windows 2000 Setup Driver for Internal Floppy Disk Drive(フロッピーディスク)(N8405-013添付品)
- Windows 2000 Driver for Internal Floppy Disk Drive(CD-ROM) (N8405-013添付品)



- N8405-013ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照して、内蔵CD-ROMドライブ&フロッピーディスクドライブを使用できるようにケーブルの接続を行い、KVMとMediaの切替を設定して下さい。
- セットアップが完了するまでKVMとMediaの切替を行わないでください。



OEM-DISKの作成方法については、ユーザーズガイドの「ソフトウェア編」-「EXPRESSBUILDER」-「EXPRESSBUILDERトップメニュー」-「ツールメニュー」-「サポートディスクの作成」の章を参照してください。

<K410-135(00)集合ケーブル(別売)を使用してN8460-001外付CD-ROMドライブ&外付フロッピーディスクドライブを使用する場合(Windows Server 2003)>

- ユーザーズガイド(本書)
- ファーストステップガイド
- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER
- 外付フロッピーディスクドライブ
- 外付CD-ROMドライブ
- N8460-001外付CD-ROMドライブのドライバ(フロッピーディスク)
- バックアップCD-ROM Win2003 Server Standard Edition/バックアップCD-ROM Win2003 Server Enterprise Edition または、Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition 日本語版(CD-ROM)/Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition 日本語版(CD-ROM)
- Windows Server 2003 Service Pack 1 (CD-ROM)

<K410-135(00)集合ケーブル(別売)を使用してN8460-001外付CD-ROMドライブ&外付フロッピーディスクドライブを使用する場合(Windows 2000)>

- ユーザーズガイド(本書)
- ファーストステップガイド
- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER
- 外付フロッピーディスクドライブ
- 外付CD-ROMドライブ
- Microsoft Windows 2000 Server 日本語版(CD-ROM)(with Service Pack 3 以上)
- Microsoft Windows 2000 Service Pack 4 (CD-ROM)

<K410-135(00)集合ケーブル(別売)を使用してN8460-003 外付CD-ROMドライブまたは、N8460-009 DVD-ROMセット&外付フロッピーディスクドライブを使用する場合(Windows Server 2003)>

- ユーザーズガイド(本書)
- ファーストステップガイド
- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER
- 外付フロッピーディスクドライブ
- セルフパワー仕様USBハブ
- 外付CD-ROMドライブまたは、外付DVD-ROMドライブ
- バックアップCD-ROM Win2003 Server Standard Edition/バックアップCD-ROM Win2003 Server Enterprise Edition または、Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition 日本語版(CD-ROM)/Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition 日本語版(CD-ROM)
- Windows Server 2003 Service Pack 1 (CD-ROM)



OEM-DISKの作成方法については、ユーザーズガイドの「ソフトウェア編」－「EXPRESSBUILDER」－「EXPRESSBUILDERトップメニュー」－「ツールメニュー」－「サポートディスクの作成」の章を参照してください。

<K410-135(00)集合ケーブル(別売)を使用してN8460-003 外付CD-ROMドライブまたは、N8460-009 DVD-ROMセット&外付フロッピーディスクドライブを使用する場合(Windows 2000) >

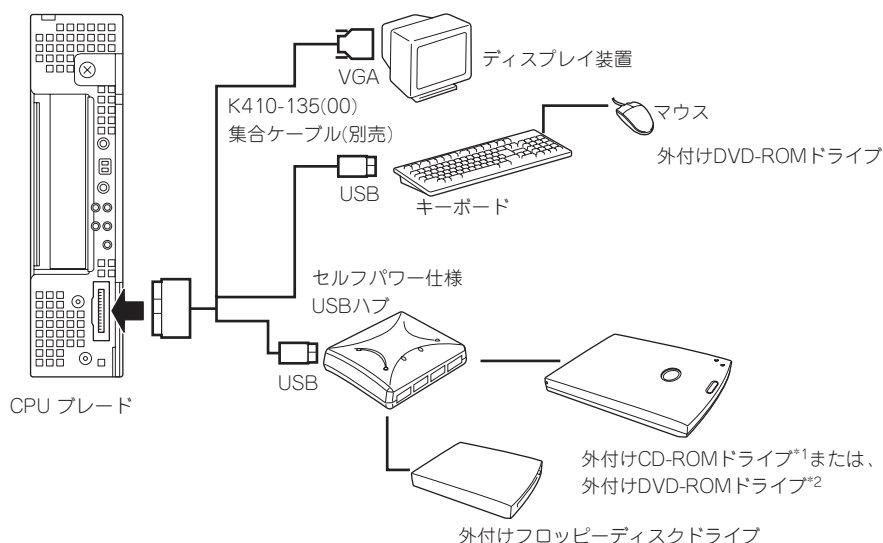
- ユーザーズガイド(本書)
- ファーストステップガイド
- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM
- Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER
- 外付フロッピーディスクドライブ
- セルフパワー仕様USBハブ
- 外付CD-ROMドライブまたは、外付DVD-ROMドライブ
- Microsoft Windows 2000 Server 日本語版(CD-ROM)(with Service Pack 3 以上)
- Microsoft Windows 2000 Service Pack 4 (CD-ROM)



OEM-DISKの作成方法については、ユーザーズガイドの「ソフトウェア編」－「EXPRESSBUILDER」－「EXPRESSBUILDERトップメニュー」－「ツールメニュー」－「サポートディスクの作成」の章を参照してください。



下図を参照して、周辺機器とCPUブレードとをK410-135(00)集合ケーブルにて接続してください。



*1 N8460-001外付CD-ROMドライブを使用する場合は、セルフ・パワー仕様のUSBハブ(N8460-005)を使用せず、集合ケーブルにUSBキーボードを接続し、キーボードのUSBポートにN8460-001外付CD-ROMドライブを接続してもかまいません。

*2 N8460-009外付DVD-ROMセットの外付DVD-ROMドライブを使用する場合は、装置に添付されている二股USBインタフェースケーブルを使用してください。

Windows Server 2003 x64 Editionsのインストール

次の手順に従ってインストールします。

1. CD-ROMドライブにWindows Server 2003 x64 Edition CD-ROMをセットする。
2. 電源をONしてCPUブレードを起動する。

重要

ハードディスクドライブ上に起動可能なOSがインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD...」が表示されている間に<Enter>キーを押してください。起動可能なOSが存在しない場合は不要です。

3. 画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。

チェック

- <F6>キーを押しても、画面上には何の変化もあらわれません。
- USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

4. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s).

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

5. Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSIアダプタのリストが表示されます。

HostRAIDを使用している場合は、手順6へ進む。

HostRAIDを使用しない場合は、手順7へ進む。

6. [Adaptec HOSTRAID driver for Windows XP/2003 x64 Edition]を選択し、<Enter>キーを押す。

7. N8403-015 FibreChannelコントローラを使用している場合は、再度<S>キーを押す。

N8403-015 FibreChannelコントローラを使用しない場合は、手順10まで進んでください。

8. Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSIアダプタのリストが表示されます。

9. [Emulex LPX000 PCI-Fibre Channel HBA]を選択し、<Enter>キーを押す。

以下のメッセージが表示されます。

The driver you provided seems to be newer than the Windows default driver.
Windows already has a driver that you can use for "Emulex LPX000 PCI-Fibre Channel HBA".
Unless the device manufacture prefers that you use the driver on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

<S>キーを押す。



重要

ここで<Enter>キーを押さないでください。正しいドライバがインストールされなくなります。

10. <Enter>キーを押す。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

インストールの完了後、62ページの「インストール後の作業」を参照してください。

Windows Server 2003のインストール

次の手順に従ってインストールします。

1. CD-ROM(DVD-ROM)ドライブにWindows Server 2003 CD-ROMをセットする。
2. 電源をONしてCPUブレードを起動する。



重要

ハードディスクドライブ上に起動可能なOSがインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD...」が表示されている間に<Enter>キーを押してください。起動可能なOSが存在しない場合は不要です。

3. 画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。



チェック

- <F6>キーを押しても、画面上には何の変化もあわれません。
- USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

4. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s).

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

5. N8460-001外付CD-ROMドライブを使用する場合は、N8460-001外付CD-ROMドライブのドライブFDをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

USB CD-ROMドライブのドライバが表示されます。

N8460-001外付CD-ROMドライブを使用しない場合は、手順8まで進んでください。

6. 「USB driver」を選択し、<Enter>キーを押す。

7. 再度<S>キーを押す。

8. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSIアダプタリストが表示されます。

[Adaptec Ultra320 SCSI Cards(Win XP/Server 2003 IA-32)]を選択する。

以下のメッセージが表示されます。

The driver you provided seems to be newer than the Windows default driver.

Windows already has a driver that you can use for
"Adaptec Ultra320 SCSI Cards(Win XP/Server 2003 IA-32)".

Unless the device manufacture prefers that you use the driver on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

9. <S>キーを押す。

重要

ここで<Enter>キーを押さないでください。
正しいドライバがインストールされなくなります。

10. HostRAIDを使用している場合は、再度<S>キーを押す。

HostRAIDを使用しない場合は、手順13まで進んでください。

11. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSIアダプタのリストが表示されます。

12. [Adaptec HostRAID U320 Driver Ver.1.02 For Windows 2000/XP/2003]を選択し、<Enter>キーを押す。

13. N8403-015 FibreChannelコントローラを使用している場合は、再度<S>キーを押す。
N8403-015 FibreChannelコントローラを使用しない場合は、手順16まで進んでください。
14. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。
SCSIアダプタのリストが表示されます。
15. [Emulex LP1050 PCI-Fibre Channel HBA]を選択し、<Enter>キーを押す。
16. <Enter>キーを押す。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

インストールの完了後、62ページの「インストール後の作業」を参照してください。

Windows 2000からWindows Server 2003へのアップグレードインストール

次の手順に従ってインストールします。

1. システムの電源をONにし、Windows 2000を起動する。
2. 管理者権限を持ったユーザー(Administrator等)でログオンする。
3. CD-ROM(DVD-ROM)ドライブにWindows Server 2003 CD-ROMをセットする。
[実行する操作の選択]画面が表示されます。



ヒント

[実行する操作の選択]画面が表示されない場合は、「<CD-ROMのドライブレター>: ¥SETUP.EXE」を実行してください。

4. [Windows Server 2003をインストールする]を選択する。
アップグレードか新規インストールかを選択するダイアログボックスが表示されます。

5. 「アップグレード(推奨)」を選択し、[次へ]をクリックする。
メッセージに従って作業を続けてください。ファイルのコピー後、自動的に再起動します。



ヒント

Windows Server 2003 CD-ROMはCD-ROMドライブにセットしたままがかまいません。

6. 画面下部に「Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID Controller...」が表示されている間に<F6>キーを押す。



チェック

- <F6>キーを押しても、画面上には何の変化もあらわれません。
- USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

7. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s).

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

8. N8460-001外付CD-ROMドライブを使用する場合は、N8460-001外付CD-ROMドライブのドライブFDをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

USB CD-ROMドライブのドライバが表示されます。

N8460-001外付CD-ROMドライブを使用しない場合は、手順11まで進んでください。

9. 「USB driver」を選択し、<Enter>キーを押す。

10. 再度<S>キーを押す。

11. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSIアダプタリストが表示されます。

[Adaptec Ultra320 SCSI Cards(Win XP/Server 2003 IA-32)]を選択する。

以下のメッセージが表示されます。

The driver you provided seems to be newer than the Windows default driver.

Windows already has a driver that you can use for
"Adaptec Ultra320 SCSI Cards(Win XP/Server 2003 IA-32)".

Unless the device manufacture prefers that you use the driver on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

12. <S>キーを押す。



重要

ここで<Enter>キーを押さないでください。
正しいドライバがインストールされなくなります。

13. HostRAIDを使用している場合は、再度<S>キーを押す。

HostRAIDを使用しない場合は、手順16まで進んでください。

14. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSIアダプタのリストが表示されます。

15. [Adaptec HostRAID U320 Driver Ver.1.02 For Windows 2000/XP/2003]を選択し、<Enter>キーを押す。

16. N8403-015 FibreChannelコントローラを使用している場合は、再度<S>キーを押す。
N8403-015 FibreChannelコントローラを使用しない場合は、手順19まで進んでください。
17. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。
SCSIアダプタのリストが表示されます。
18. [Emulex LP1050 PCI-Fibre Channel HBA]を選択し、<Enter>キーを押す。
19. <Enter>キーを押す。

重要

- アップグレードインストール中で以下のようなポップアップメッセージが表示される場合があります。必ず[いいえ]をクリックして作業を進めてください。

このハードウェア；

NEC Express logging device

を使用するためにインストールしようとしているドライバソフトウェアは、Authenticode(TM)技術で適切に署名されていません。そのため、ソフトウェアが発行された後に変更されたかどうかを確認できません。発行元のIDは次の問題のため確認できません。：

インストールされたINFファイルには、デジタル署名情報が含まれていません。

このドライバソフトウェアをインストールしますか？

[はい(Y)] [いいえ(N)] [詳細情報(M)]

- NEC Express loggingドライバは、EXPRESSBUILDERを使った「システムのアップデート」で自動でインストールされます。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

インストールの完了後、62ページの「インストール後の作業」を参照してください。

Windows 2000のインストール

次の手順に従ってインストールします。

☐ N8405-013ブレード収納ユニット内蔵 CD-ROMドライブ&フロッピーディスクドライブを使用する場合

1. N8405-013 ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照して、内蔵CD-ROMドライブ&フロッピーディスクドライブを使用できるようにケーブルの接続を行い、KVMとMediaの切替を行わないでください。
2. CD-ROMドライブにWindows 2000 CD-ROMをセットする。

重要

ハードディスクドライブ上に起動可能なOSがインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD...」が表示されている間に<Enter>キーを押してください。起動可能なOSが存在しない場合は不要です。

3. 電源をONしてCPUブレードを起動する。
4. 画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。



- <F6>キーを押しても、画面上には何の変化もあらわれません。
- USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

5. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s).

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

6. Windows 2000 Setup Driver for Internal Floppy Disk Drive(N8405-013 添付品)をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。
USBフロッピーディスクドライブのドライバが表示されます。
7. 「NEC USB FDD Windows 2000」を選択し、<Enter>キーを押す。
8. 再度<S>キーを押す。
9. Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。
SCSIアダプタのリストが表示されます。
10. [Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win2000)]を選択し、<Enter>キーを押す。
11. HostRAIDを使用している場合は、再度<S>キーを押す。
HostRAIDを使用しない場合は、手順14まで進んでください。
12. Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。
SCSIアダプタのリストが表示されます。
13. [Adaptec HostRAID U320 Driver Ver 1.02 For Windows 2000/XP/2003]を選択し、<Enter>キーを押す。

14. <Enter>キーを押す。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

インストールの完了後、この後の「インストール後の作業」を参照してください。

□ K410-135(00)集合ケーブルを使用して、N8460-003 外付CD-ROMドライブまたは、N8460-009外付DVD-ROMセットを使用する場合

1. CPUブレードに接続したCD-ROM(DVD-ROM)ドライブにWindows 2000 CD-ROMをセットする。
2. 電源をONしてCPUブレードを起動する。
3. 画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。



チェック

- <F6>キーを押しても、画面上には何の変化もあらわれません。
- USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

4. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s).

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

5. Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSIアダプタのリストが表示されます。

6. [Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win2000)]を選択し、<Enter>キーを押す。

7. HostRAIDを使用している場合は、再度<S>キーを押す。

HostRAIDを使用しない場合は、手順10まで進んでください。

8. Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSIアダプタのリストが表示されます。

9. [Adaptec HostRAID U320 Driver Ver 1.02 For Windows 2000/XP/2003]を選択し、<Enter>キーを押す。

10. <Enter>キーを押す。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

インストールの完了後、この後の「インストール後の作業」を参照してください。

□ K410-135(00)集合ケーブルを使用して、N8460-001外付CD-ROMドライブを使用する場合

1. CPUブレードに接続したCD-ROMドライブの電源をONにし、CD-ROMドライブにWindows 2000 CD-ROMをセットする。
2. 電源をONしてCPUブレードを起動する。
3. 画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。



- <F6>キーを押しても、画面上には何の変化もあらわれません。
- USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

4. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s).

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

5. 外付けCD-ROMドライブのドライバFDをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

USB CD-ROMドライブのドライバが表示されます。

6. 「USB driver」を選択し、<Enter>キーを押す。



USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

7. 再度<S>キーを押す。
8. Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。
SCSIアダプタのリストが表示されます。

9. [Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win2000)]を選択し、<Enter>キーを押す。
10. HostRAIDを使用している場合は、再度<S>キーを押す。
HostRAIDを使用しない場合は、手順13まで進んでください。
11. Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。
SCSIアダプタのリストが表示されます。
12. [Adaptec HostRAID U320 Driver Ver 1.02 For Windows 2000/XP/2003]を選択し、<Enter>キーを押す。
13. <Enter>キーを押す。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

インストールの完了後、この後の「インストール後の作業」を参照してください。

インストール後の作業

インストールを完了したら、次の作業を行ってセットアップを完了してください。

- システムのアップデート(42ページ)
- ドライバの詳細設定(22ページ)
- 障害処理のためのセットアップ(32ページ)
- システム情報のバックアップ(44ページ)
- ターミナルサービスのインストール(必要な場合・65ページ)
- USB CD-ROMドライバのインストール(N8460-001外付CD-ROMを使用する場合のみ・詳細は外付CD-ROMドライブに添付の説明書を参照)
- N8405-013内蔵フロッピーディスクドライブのドライバのインストール(N8405-013ブレード収納ユニットに実装する場合のみ・詳細はブレード収納ユニットユーザズガイドを参照)

再インストール(Linux)

Linuxを再インストールする手順について説明します。

注意事項

インストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

- キー入力について

USBフロッピーディスクドライブ、USB CD-ROMドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスク、CD-ROMへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

セットアップの手順(Linux)

Linuxをインストールする場合、「Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書」を参照してインストールしてください。

管理用リモートデスクトップについて

Windows Server 2003 x64 EditionsやWindows Server 2003をご使用の場合に必要な管理用リモートデスクトップの設定について説明します。



管理用リモートデスクトップを使用するのに、有償のターミナルサーバークライアントアクセスライセンスは必要ありません。管理用リモートデスクトップは、最大2つの同時接続が可能です。



- カスタムインストールモデルをご購入の場合は、管理用リモートデスクトップの設定は必要ありません。
- Windows 2000をご使用の場合は、管理用リモートデスクトップの設定は必要ありません。
「ターミナルサービスについて」(65ページ)を参照してください。

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

次の手順にしたがって設定をします。



管理用リモートデスクトップを使用するためには、administratorにパスワードの設定が必要です。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
2. [リモート]タブを選択し、[リモートデスクトップ]項目の[このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する]をチェックし、[OK]をクリックする。

Windows Server 2003の場合

次の手順にしたがって設定をします。



管理用リモートデスクトップを使用するためには、administratorにパスワードの設定が必要です。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
2. [リモート]タブを選択し、[リモートデスクトップ]項目の[このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する]をチェックし、[OK]をクリックする。

ターミナルサービスについて

ターミナルサービス(サーバ/クライアント)のインストールと接続方法について説明します。

Windows 2000の場合

Windows 2000を使用している場合のインストールと設定について説明します。

CPUブレード側へのターミナルサービスのインストール

ターミナルサービスのインストールについて説明します。

インストール方法

1. CD-ROMドライブにWindows 2000 CD-ROMをセットする。
2. <CD-ROMを挿入した後にダイアログボックスが自動的に表示される場合>
[追加コンポーネントのインストール]をクリックする。

<CD-ROMを挿入した後にダイアログボックスが表示されない場合>
① [スタート]をクリックし、[設定]をポイント後、[コントロールパネル]をクリックする。
② [アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックし、[Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
3. コンポーネントの一覧で、[ターミナル サービス]チェックボックスをオンする。
4. [ターミナル サービス ライセンス]チェックボックスがオンになっている場合は、オフにする。
リモート管理モードではこのサービスは必要ありません。[次へ]をクリックしてください。
5. [リモート管理モード]をクリックし、[次へ]をクリックする。
6. ターミナル サービスウィザードを実行し、ターミナルサービスをインストールする。
7. インストールを完了するときにウィザードを閉じる。
8. コンピュータの再起動を求められた場合は、CPUブレードを再起動する。

ターミナルサービスのクライアントモジュールの共有

サーバで実行されているターミナルサービスに接続するには、ターミナルサービスクライアントを使用する必要があります。クライアントは、ターミナルサービスをインストールしたサーバの次のフォルダから利用できます。

%SystemRoot%\System32\clients\tscclient\Net\Win32

任意のコンピュータにクライアントを簡単にインストールできるように、以下の手順でサーバに共有を作成します。

1. Windowsエクスプローラを使用して、以下のフォルダに移動する。
%SystemRoot%\System32\clients\tscclient\Net\Win32
「%SystemRoot%」は多くの場合、「C:\Winnt」フォルダです。
2. [Win32]フォルダを右クリックし、[共有]をクリックする。
3. [共有]タブで、[このフォルダを共有する]をクリックする。
4. 共有名を、TSCClientに変更する。
5. [アクセス許可]をクリックする。
6. [フルコントロール]チェックボックスと[変更]チェックボックスをオフにする。
7. [読み取り]アクセス許可のみオンにする。
8. [OK]をクリックした後、もう一度、[OK]をクリックする。

ターミナルサービスクライアント

ターミナルサービスクライアントは、Microsoft Windows 95、Microsoft Windows 98、Microsoft Windows Millennium Edition (Me)、Microsoft Windows XP、Microsoft Windows NT 3.5x/4.0、Microsoft Windows 2000、Microsoft Windows Server 2003、およびさまざまなサーバのバージョンを含めた32ビット版のWindowsで実行できます。

上記で作成した共有に接続します。共有名は「¥¥サーバ名¥TSCClient」です。¥¥サーバ名には、ターミナルサービスをインストールしたコンピュータの名前を指定します。各種名称の大文字と小文字を区別する必要はありません。

インストール

以下の手順で、ターミナルサービスクライアントをインストールします。

1. 上記で作成した「¥¥サーバ名¥TSCClient共有」に接続する。

重要

- カスタムインストールモデルの場合は、「NEC-XXXXXXXXXX」という名前で、WORKGROUPのサーバとしてインストールされます(注:「XXXXXXXXXX」はCPUブレードによって異なります)。
- WORKGROUPの場合、複数のサブネットを持つネットワークに接続したとき、DNSサーバが異なるサブネットのコンピュータ名をブラウズして表示することがあるため、CPUブレードのコンピュータ名が表示されないことがあります。
- カスタムインストールの場合は、CPUブレードのadministratorにはパスワードは設定されていません。セキュリティ対策として必ずパスワードを設定して使用してください。

2. Setup.exeをダブルクリックする。

[ターミナルサービス クライアントセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [継続]をクリックし、[ユーザ情報の登録]ダイアログボックスで「名前」と「所属」を入力する。

[ユーザ情報の確認]ダイアログボックスで、[OK]をクリックする。

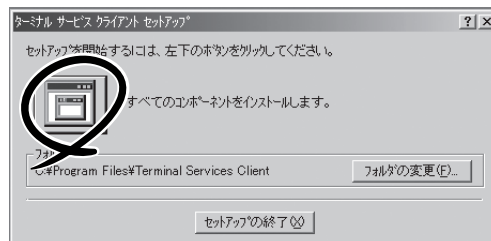
4. 使用許諾契約が表示されたときに [同意する]をクリックする。

5. [ターミナル サービス クライアント セットアップ]ダイアログボックスのアイコンボタンをクリックする。

クリックする前に必要に応じてインストールパスを変更できます。

6. すべてのユーザーが同じ初期設定になるようにするかどうかの問い合わせに対して[はい]をクリックする。

7. [OK]をクリックし、終了する。



ターミナルサービスサーバへの接続を作成する方法

ターミナルサービスサーバをリモートで管理できるようになる前に、管理するサーバへの接続を作成しておく必要があります。この手順では、クライアント接続マネージャツールを使用して、管理するすべてのターミナルサービスサーバアイコンを作成します。

以下の手順で、接続を作成します。

1. [スタート]をクリックし、[プログラム]、[ターミナルサービスクライアント]の順にポイントし、[クライアント接続マネージャ]をクリックする。
2. [ファイル]メニューの[新しい接続]をクリックして[クライアント接続マネージャ ウィザード]を起動し、[次へ]をクリックする。
3. [接続名]ボックスに、接続を説明する名称を入力する。
4. [サーバー名またはIPアドレス]ボックスに、サーバの名前またはIPアドレスを入力し、[次へ]をクリックする。

サーバを検索する場合は、[参照]をクリックします。

重要

- カスタムインストールモデルの場合は、「NEC-XXXXXXXXXX」という名前で、WORKGROUPのサーバとしてインストールされます(注:「XXXXXXXXXX」はCPUブレードによって異なります)。
- WORKGROUPの場合、複数のサブネットを持つネットワークに接続したとき、DNSサーバが異なるサブネットのコンピュータ名をブラウズして表示することがあるため、CPUブレードのコンピュータ名が表示されないことがあります。

5. 自動ログオン情報はすべて空白のままにして、[次へ]をクリックする。

自動ログオン情報を使用すると、非管理者がクライアントを実行しているコンピュータからサーバにアクセスできる場合に、セキュリティの問題が発生する可能性があります。

6. 適切な画面の解像度を選択し、[次へ]をクリックする。

選択できる最大領域を使用することをお勧めします。クライアントではローカルの画面に表示できるよりも大きな領域を選択することはできません。この時点で、[全画面表示]を選択しないでください。あとで、ウィンドウモードと全画面モードを切り替えることができます。ローカルワークステーションではなく、リモートコンピュータで作業していることを明確にするために、初期接続はウィンドウモードのままにしておきます。

7. [データ圧縮を有効にする]チェックボックスと[ビットマップをキャッシュする]チェックボックスをオフのままにして[次へ]をクリックする。

これらのオプションは、低速ダイヤルアップリンクを使って作業する場合にのみ役に立ちます。

8. [次のプログラムを起動する]チェックボックスはオフのままにして[次へ]をクリックする。

クライアントがサーバのデスクトップを表示するようになります。

9. 必要に応じてアイコンを変更し、[次へ]をクリックする。

10. [完了]をクリックして、ウィザードを完了する。

この手順によりサーバのアイコンが作成されます。アイコンをダブルクリックすることにより、サーバに接続します。また、アイコンを右クリックし、必要に応じて接続プロパティを変更できます。

ターミナルサービスを使用してサーバに接続する方法

1. クライアント接続マネージャでサーバのアイコンをダブルクリックする。

ターミナル サービスクライアントウィンドウが表示され、サーバのログオンダイアログボックスが表示されます。画面全体を表示するには、ウィンドウのタイトルバーをダブルクリックします。

重要

CPUブレードの電源をON後、約4分たってから接続を開始してください。

2. サーバにログオンするために適切な資格情報のセットを入力する。

通常は何らかの管理権限（ローカル、ドメインまたはエンタープライズ）を持つユーザーとしてログオンします。

正しい資格情報を使用している場合は、サーバのデスクトップが表示されます。

重要

カスタムインストールの場合は、CPUブレードのadministratorにはパスワードは設定されていません。セキュリティ対策として必ずパスワードを設定して使用してください。

リモート制御製品を使用することとは大きく異なることに注意してください。サーバのキーボード、マウス、および画面は操作されません。代わりに、そのコンピュータにログオンし、新しいセッションが作成されます。ただし、このセッションはコンピュータでローカルに表示されるのではなく、ターミナル サービスを使ってリモートに表示されます。しかし、ログオンしたユーザーはローカルコンソールで作業しているかのように、コンピュータのプログラムにフルアクセス権を持ちます。

ターミナルサービスクライアントからの切断

セッションを切断することと、ログオフすることには重要な違いがあります。ターミナル サービスクライアントウィンドウを閉じたただけの場合は、サーバでそのセッションはアクティブなままになります。再度接続すると、ターミナルサービスはそのセッションに再接続します。すべてのプログラムはセッション内で実行されたままであり、依然として利用できます。セッションを終了するには、リモートコンピュータの [スタート] メニューを使ってログオフする必要があります。このログオフにより、リモートセッションが終了することに注意してください。コンピュータのローカルコンソールではユーザーはログオフされません。

HostRAID™について

ここではHostRAIDの概要およびWindowsオペレーティングシステムにおけるセットアップ手順について説明します。

Linuxオペレーティングシステムの場合は、Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書を参照してください。

HostRAIDの概要

HostRAIDとは、RAIDボードを使用せず、CPUブレードに搭載された Adaptec Ultra320 SCSIインタフェースを使用し、ディスクアレイ機能を提供するソフトウェアです。

HostRAIDでは、ディスクアレイを制御するドライバとディスクアレイの管理ユーティリティである「Adaptec Storage Manager™」(以降、ASMと略す)から構成されています。これらのソフトウェアはどちらか一方でも欠けると正常な動作ができません。ドライバは本書のセットアップ手順を参照し、ASMは本書の「Express本体用バンドルソフトウェア」の「Adaptec Storage Manager™」を参照して、必ず両方のソフトウェアをインストールしてください。

仕様概要

ハードディスクドライブ:	2ドライブ
RAIDレベル:	RAID0/RAID1
OS:	Microsoft Windows 2000 Server/Windows Server 2003 Standard Edition/Windows Server 2003 Enterprise Edition/Windows Server 2003 Standard x64 Edition/Windows Server 2003 Enterprise x64 Edition Linux(サポートしているディストリビューションについては、お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください)
ディスクアレイの構築:	BIOSユーティリティおよび管理ユーティリティ
通報機能:	イベントログベースのESMPROの通報機能による通報(それ以外のESMPRO機能との連携はサポートしていません)

特徴

- ハードディスクドライブの活線挿入(HotSwap)によるホットスワップリビルド機能をサポート。
- BIOSユーティリティにより、チャンネル単位でのディスクアレイ/標準SCSIの切り替え可能。

注意事項

HostRAID全般に関する注意事項について説明します。

BIOSおよびSCSI Selectユーティリティに関する注意事項については、「SCSIBIOS - HostRAID」の章を、ASMに関する注意／制限事項は「Adaptec Storage Manager™ ユーザーズガイド」を参照し、確認してください。

- HostRAIDでRAID 1のアレイを使用する場合、定期的に週に1回程度、Verifyを行うことを推奨します。Verifyはアレイに対してハードディスクドライブの整合性のチェックを行うための機能ですが、ハードディスクドライブに対する全面Readを行うので、ディスクアクセスによってのみ検出できる障害を早期に検出することが可能になります。Verifyについては、「Adaptec Storage Manager™ユーザーズガイド」を参照してください。
- HostRAIDの機能を使用するためには、ドライバの登録以外にASMのインストールが必須です。ASMのインストールについては、「Adaptec Storage Manager™ユーザーズガイド」を参照してください。
- HostRAIDで使用しているハードディスクドライブを交換する場合は、ハードディスクドライブを取り外してから替わりのハードディスクドライブを取り付けるまでに60秒以上の間隔をあけてください。この間隔が短いと予期せぬ事象が発生する可能性があります（ASM画面でハードディスクドライブの取り外し/取り付けを認識できてから実施することをお勧めします）。
- HostRAIDではACPI機能のスタンバイ/休止モードを使用できません。
- HostRAID では、ESMPRO/ServerAgentの通報機能によるイベントログベースの通報を行います。それ以外のESMPRO 機能についてはサポートしていません。
- HostRAIDの保守作業はSCSI Selectユーティリティを使用せず、ASMを使用してください。
- 高負荷運用中にI/Oが遅延し、以下のログがイベントログに登録される場合がありますが、HostRAIDによるリトライ処理でアプリケーションやシステム運用への影響を与えずに通常に動作しています。

イベントソース: a320raid.sys

イベントID: 9

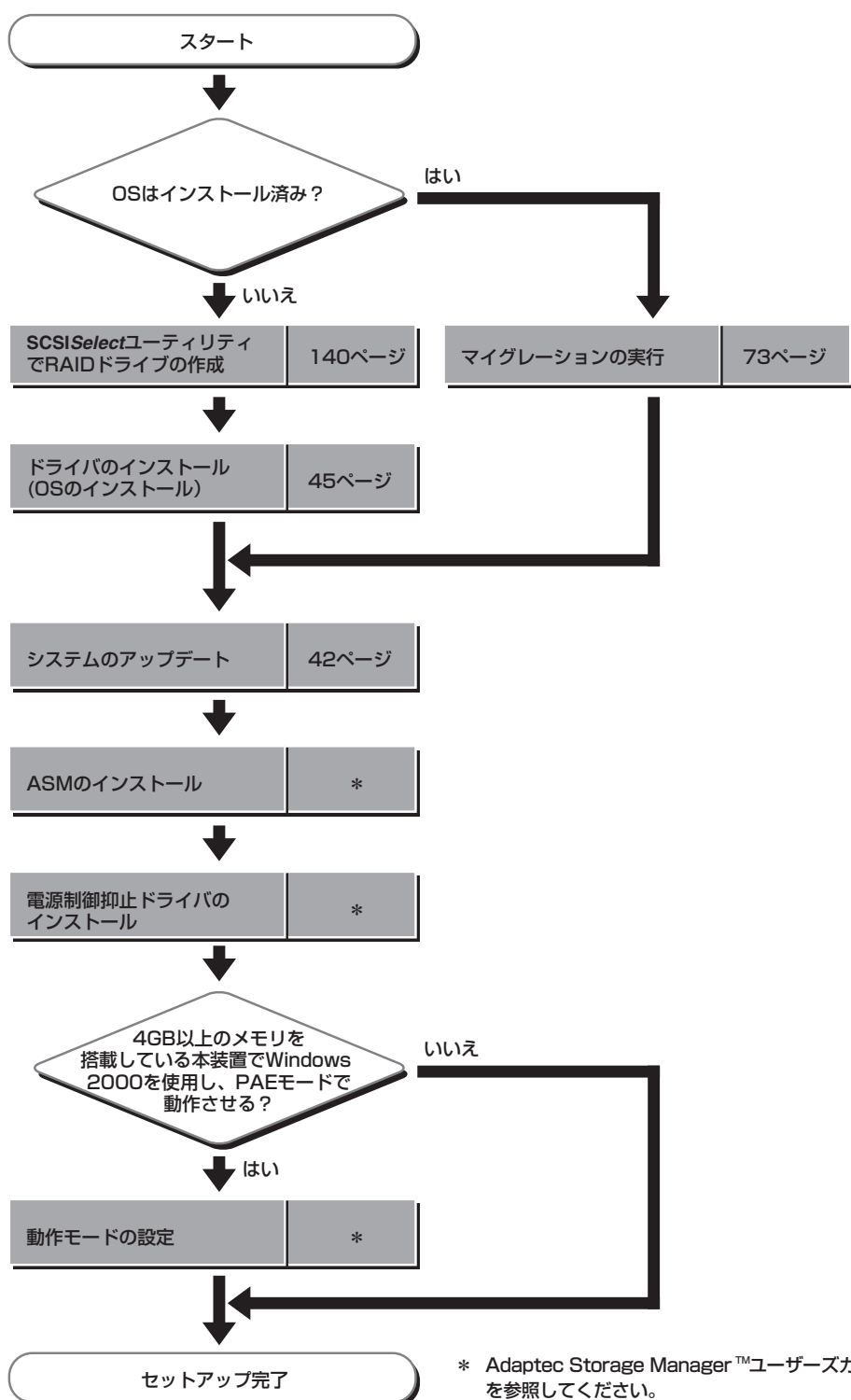
説明: デバイス ¥Device¥SCSI¥a320raid*はタイムアウト期間内に応答しませんでした。

(*は任意の値)

- HostRAID利用時は、「SCSIBIOS -SCSISelect/HostRAID-」の「ブートプライオリティ指定」(P 159)を参照し、必ずBIOSにてBootableの設定を行ってください。本設定を行わない場合は、障害発生時メモリダンプを採取することができない等の問題が発生します。

HostRAIDセットアップの流れ

HostRAIDシステムをセットアップする作業手順の流れは以下のとおりです。



ハードディスクドライブの移行(マイグレーション)

標準SCSI接続のハードディスクドライブを起動ディスクとして使用していたシステムをHostRAIDのRAID1に移行する場合、ハードディスクドライブのマイグレーションをします。詳細についてはオンラインドキュメントの「Express5800 SCSI HostRAIDのマイグレーション実施時の手順について (Windows)」を参照してください。

Linux環境の場合は、Linux基本サービスセットソフトウェアCD-ROM内の「NEC Express5800シリーズSCSI HostRAIDマイグレーション手順書(Linux版)」を参照してください。

FibreChannelコントローラ(N8403-015) ご使用時の注意事項

FibreChannelコントローラ(N8403-015)ご使用時の注意事項について説明します。

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

- システムに、FibreChannelコントローラ(N8403-015)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバは自動インストールされますが、その後、ドライバのアップデートが必要です。その場合、システムのアップデートを行ってください。システムのアップデートを行うとドライバが自動でインストールされます。

Windows Server 2003の場合

- FibreChannelコントローラ(N8403-015)の1ポートのみFibreChannelデバイスを接続している場合もしくは全くFibreChannelデバイスを接続していない場合に、システム起動時またはシステムのアップデート中に以下のイベントログが登録される場合がありますが、システム運用上、問題はありません。

イベントソース: lpxnds
イベントID: 9
説明: デバイス ¥Device¥SCSI¥lpxnds*はタイムアウト期間内に応答しませんでした。
(*は任意の値)

イベントソース: PlugPlayManager
イベントID: 12
説明: デバイス 'Emulex Simulate Device' (SCSI¥ASCIT8&Ven_Emulex&Prod_Utility_lfc_Dev.&Rev_EMU2¥6&28b4e4c1&0&27f0)は、最初に取り外しの準備が行われずにシステムから消滅しました。

- システムに、FibreChannelコントローラ(N8403-015)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動インストールされません。その場合にはシステムのアップデートを行ってください。システムのアップデートを行うとドライバが自動でインストールされます。